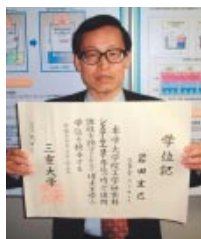


岩田さん、伊藤さん、稲垣さんが博士号取得

電力技術研究所 土木建築グループの岩田宜己さん（現在55歳）は、平成15年3月25日に三重大学より博士号（工学）を、同じく原子力・材料グループの伊藤明洋さんは、平成15年3月25日に早稲田大学より博士号（工学）を、同じく原子力・材料グループの稲垣博光さんは、平成15年3月24日に北陸先端科学技術大学院大学より博士号（材料科学）を授与されました。

岩田さんは入社以来、建築技術者として幅広い分野で活躍し、平成9年7月からは電力技術研究所にて空調システムに関する研究に従事しています。さらに、平成11年4月からは三重大学工学研究科博士後期課程システム工学専攻に入学し、電力負荷平準化に有効な蓄熱式空調システム、特に温度成層型蓄熱槽に関する研究を続けてきました。今回研究成果をまとめられた「低水深多槽並列式温度成層型蓄熱槽の蓄熱バランス向上に関する研究」と題する論文では、水深が1.5～2m程度の低水深の並列に連結された蓄熱槽の低中層建物地下スラブ空間への適用を検証しており、多くの研究者から高い評価を得ました。また、この論文の研究成果は、当社施設では岐阜支店、豊田営業所に、社外では津市高田福祉施設に適用されています。



伊藤さんは、入社以来、電力技術研究所において火力発電機器を対象とした研究開発に従事しており、平成11年からは早稲田大学大学院理工学研究科博士後

期課程資源及材料工学専攻に入学し、研究所勤務と並行して発電用ガスタービン高温部品の劣化現象に関する研究を続けてきました。今回の博士号授与は、これらのうち動翼に関する成果をまとめた「ガスタービン動翼の材料劣化と特性回復に関する研究」と題する論文が、動翼の劣化現象を解明しただけでなく、劣化した動翼の特性回復技術の開発に寄与したものと高い評価を受けたためです。



稲垣さんは、入社以来、主に原子力プラントの水質管理による被ばく低減に関する研究に従事しており、研究所勤務の傍ら平成11年からは北陸先端科学技術大学院大学材料科学研究科博士後期課程物性科学専攻に在籍し、再循環系配管への放射能蓄積挙動の研究を続けてきました。今回、博士号を授与された「コバルトの付着蓄積挙動に及ぼすステンレス酸化皮膜構造の影響」と題する論文は、複雑な放射能蓄積挙動を結晶構造や化学形態・結合などの材料科学的な視点から解明したもので、その成果は水質管理の最適化に寄与するとして高く評価されています。



3名は「今回の学位取得を励みとし、今後の競争社会を乗り切るための研究開発に貢献したいと思っています。」とその喜びと感謝の気持ちを表しています。

技術開発本部（主催）新技術セミナー開催

初めての開催となった新技術セミナーが去る2月下旬から3月上旬にかけて開催されました。

このセミナーは、お客さま訪問時や各種社外会議などにおいて当社開発技術をPRできるよう、最新の技術開発状況を研究員から直接説明することにより、研究成果内容の理解を深めるとともにPRツールの使い方を理解いただくことを目的としたものです。

各支店営業部担当者（お客さまとの交渉員）と第一線事業所の営業課（技術コンサル）を対象に支店内の希望者を加え、各50名程度が参加されました。

セミナーでの説明内容は、支店の希望する個別研究成果項目（表参照）について、パワーポイント等を利用した内容紹介を行いました。また、昨年新規作成した「新たな技術へのチャレンジ（最新研究開発技術のご紹介カタログ）」の概要説明と活用方法を紹介しました。

7月から組織強化されるアカウントマネージャー向けの自社開発技術PRとしては、タイムリーな企画で、たいへん好評でした。今後は支店以下の企画に基づき対応していく予定です。

名古屋 3月3日	静岡 2月26日	三重 2月21日	岐阜 2月25日	長野 3月6日	岡崎 2月18日
瞬時電圧低下補償装置 (SMES)	瞬時電圧低下補償装置 (SMES)	電気二重層キャパシタ	瞬時電圧低下補償装置 (SMES)	電気二重層キャパシタ	電気二重層キャパシタ
音カメラ	CVケーブル劣化診断	CVケーブル劣化診断	音カメラ	音カメラ	高調波発生源探査器
吸着冷凍機	高調波発生源探査器	河川浄化技術	河川浄化技術	流量測定装置	河川浄化技術
藻場造成技術	音カメラ	CO ₂ 冷媒ヒートポンプ	CO ₂ 冷媒ヒートポンプ	吸着冷凍機	CO ₂ 冷媒ヒートポンプ

